

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地域防災×地域交流プロジェクト			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	関西国際大学		
	活動 グループ名	地域防災ボランティアサークル「ちーぼ」	参加学生 等人数	18 人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	教育学部教育福祉学科		
	責任者氏名	岩本 裕子	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	潮江社会福祉連絡協議会		
	代表者氏名	会長 藤原 靖彦	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	本学では、防災士の資格の取得を全学的に行っている。また、教育学部教育福祉学科では、社会福祉士(ソーシャルワーカー)や保育士、教員を目指す学生が、防災士や各自の専門の学びを活かして、地域の防災活動に参画し、防災啓発活動を行っている。また、昨年度は実際に能登半島地震の支援活動(石川県七尾市)も行った。 具体的には、 ① 実際にこれらの活動を通して、学生が地域の高齢者や子ども達、生活弱者の安全・安心を考え、地域の自主防災の普及と地域連携の推進を図っていくことで、誰一人取り残さない地域共生社会の実現を目指して地域に貢献すること ② ①をととして、防災の知識、福祉や教育の専門知識と経験を結び付けること である。 さらには、③ 将来、学生達が福祉や教育の現場で、地域の防災リーダーとして活躍していくこと。また、実際の災害時には、リーダーとして地域に貢献できる人材を育成することを目指す。			
活動内容及び 実績、評価	<活動内容> 4/10 能登半島災害ボランティア活動振返り会 5月 「『ちーぼ』紹介リーフレット」の作成   			



5/26(日) 「潮江地域防災訓練」への参加
参加者へ『『ちーぼ』紹介リーフレット』の配布
大学の地域でもある「潮江地域」の皆さんと一緒に参加し、資料配布や片付けなどのサポートをしました。公園の重要性を実感。「非常用トイレ」にも座ってみました。



7月・8月 炊き出し練習・防災こども食堂の実施 (サービスマーケティング学生と合同実施)

7月20日(土)・27日(土)・8月20日(火)・22日(木)・9月14日(土)(各回11時開始・先着100名・申込不要)にフードバンク神戸様からいただいた冷凍牛すきの具と尼崎市様から頂いたアルファ化米で「ローリングストック」の大切さを伝える炊き出し練習と防災こども食堂を実施しました。

8月20日(火)・22日(木)は夏休み宿題応援企画も行い、小さなお子さん連れのご家族や小学生、潮江連協の皆さまなど全体で200名以上の方にご参加いただきました。

<参加された方からのアンケートより>

- ・アルファ化米を初めて食べましたが、思ったより食べやすかった。学生さんの説明が新設で参加させていただき、良かったです。
- ・保存食の体験ありがとうございました。これからも色々な活動をしてください。
- ・クイズ、すごくべんきょうになりました。アルファ化米初めて食べました。子どもが完食してくれて安心しました。ありがとうございました。
- ・普段食べる機会があまりないアルファ化米を食べることができ、もしもの時を考えて備えをしようと思いました。



8/25(日) オープンキャンパス模擬講義でのサポート
来場の高校生や保護者と避難所運営ゲーム HUG を実施！
10/6(日) 「尼崎市民まつり」に『『防災名札』の作成』で出展
防水のスマホケースを名札として、自分の大切な情報を記入し、名札内に収納。シールやマジックでオリジナル名札にするイベントを実施しました。防災知識を知っていただき、興味をもっていたくださりかけになりました。

子どもたちには予想以上の大人気で、用意していた100個の名札が品切れになりました。



1/17(金) 「防災食 ご飯会」の実施



「炊き出し練習・防災こども食堂」を行ったことをきっかけに、今後、防災こども食堂を行ったり、ローリングストックを案内したりすることを考え、本学の調理室で、様々な防災食を集め、試食会を開きました。ローリングストックに適した食料を探して集めて、実際に食べ比べを行いました。能登のボランティアでも作った、「アイラップ(袋)でご飯」を炊き、実際の災害時の食事について、体験することができました。一般学生や留学生にも試食してもらい、ローリングストックについて、紹介もできました。

2/8(土) 「小田地区 つながるフェスティバル」での出展と活動報告



「小田地区つながるフェスティバル」では、小田市民まつりで好評だった『防災名札』と大人の人向けに『防災ボトル』の作成ブースを出展しました。ブースに参加して下さった方に見ただけのよう 2024 年度の活動報告ポスターを作成し、活動について説明を行いました。

・今年度は、子ども向けイベントばかりで、一般向けイベントへの参加がなく、HUG や AED 講習会を実施する機会がなかったが、サークル活動として、HUG や AED による心肺蘇生、段ボールベッドの組み立てなど練習を兼ねて行った。

< 評価 >

・想定していた活動成果に対する達成度合い(達成できたこと、できなかったこと等)

本事業の活動をとおして、学生が地域の高齢者や子ども達、生活弱者の安全・安心を考え、地域の自主防災の普及と地域連携の推進を図っていくことで、①誰一人取り残さない地域共生社会の実現を目指して地域に貢献すること、② ①をとおして、防災の知識、福祉や教育の専門知識と経験を結び付けること である。さらには、③ 将来、学生達が福祉や教育の現場で、地域の防災リーダーとして活躍していくこと。また、実際の災害時には、リーダーとして地域に貢献できる人材を育成することを目指してきた。

①の地域への貢献については、潮江地域の防災訓練への参加し、運営をサポートさせていただき、地域の方々との災害時を想定した意見交換をさせていただいた。学生にとっては、地域の防災のとりくみの実際を経験させていただくことができた。本学で地域の方々を対象に実施した「防災子ども食堂」では、多くの親子連れでにぎわい、「防災も学べて親子ともども為になる」「楽しい時間が過ごせた」など、大変好評をいただいた。また、親子連れでない、地域の活動リーダーの方々もお越しくださり、共に防災食を食する経験をしながら、交流することができた。同様に本学で開催した、「小田地区つながるフェスティバル」や、「尼崎市民まつり」では、親子連れを中心とした市民の方々を対象に、防災名札や防災ボトルを作成するワークショップを実施した。また、その際、防災食の展示も併設し説明も行い、新しい情報を得ることができたと、好評であった。またその際、防災の団体や、子ども会の方、障害者団体の方々など、地域で活動されている方々がお声掛けくださり、交流することができた。

②については、本事業のメンバーは、「防災士」の資格をほぼ全員が取得している。さらに、上記の活動に加えて、「能登半島地震災害ボランティア活動振り返り会」や「防災食ご飯会」などを学内で実施したことで、災害や防災に対する知識や、福祉・教育の専門知識を増やしたり結びつけることができた。

③については、①②の経験を通じて、学生は地域の方々に関わる楽しさ、喜んでいただける喜び、災害・防災についての学びと、経験をリンクさせ、社会人となってもこれらの経験が活き、有事の際にはリーダーシップが発揮できると思われる。

・学生等が関わった地域、団体の活動の変化等

既に述べたように、様々な活動をとおして、防災に関して、「知らなかったことを知ることができた」や「考えるきっかけになった」「とても為になった」など、防災について意識化していただけたと思われる。

・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

学生は、普段、地域の方々とは接する機会ほとんどない。したがって、自分にとっては地域の方々というのは、目に見える存在ではなく、意識していなかったと言ってもよい存在であった。しかし③についてでも述べたとおり、①②の経験を通じて、学生は地域の方々に関わる楽しさ、喜んでいただける喜びを知った。そして災害・防災についての学びも深め、経験とつなげる機会もいただけた。これらの経験により、学生一人一人も地域の住民であることに気づき、将来、リーダーシップを発揮して地域に貢献できる人材に近づくことができたと思う。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。